

令和7年度 垂高フリーマガジン作っちゃいますプロジェクト／垂高高校の魂と情熱を届けます！ since 2012

TaruTama

鹿児島県立垂水高等学校フリーマガジン[たるたま]

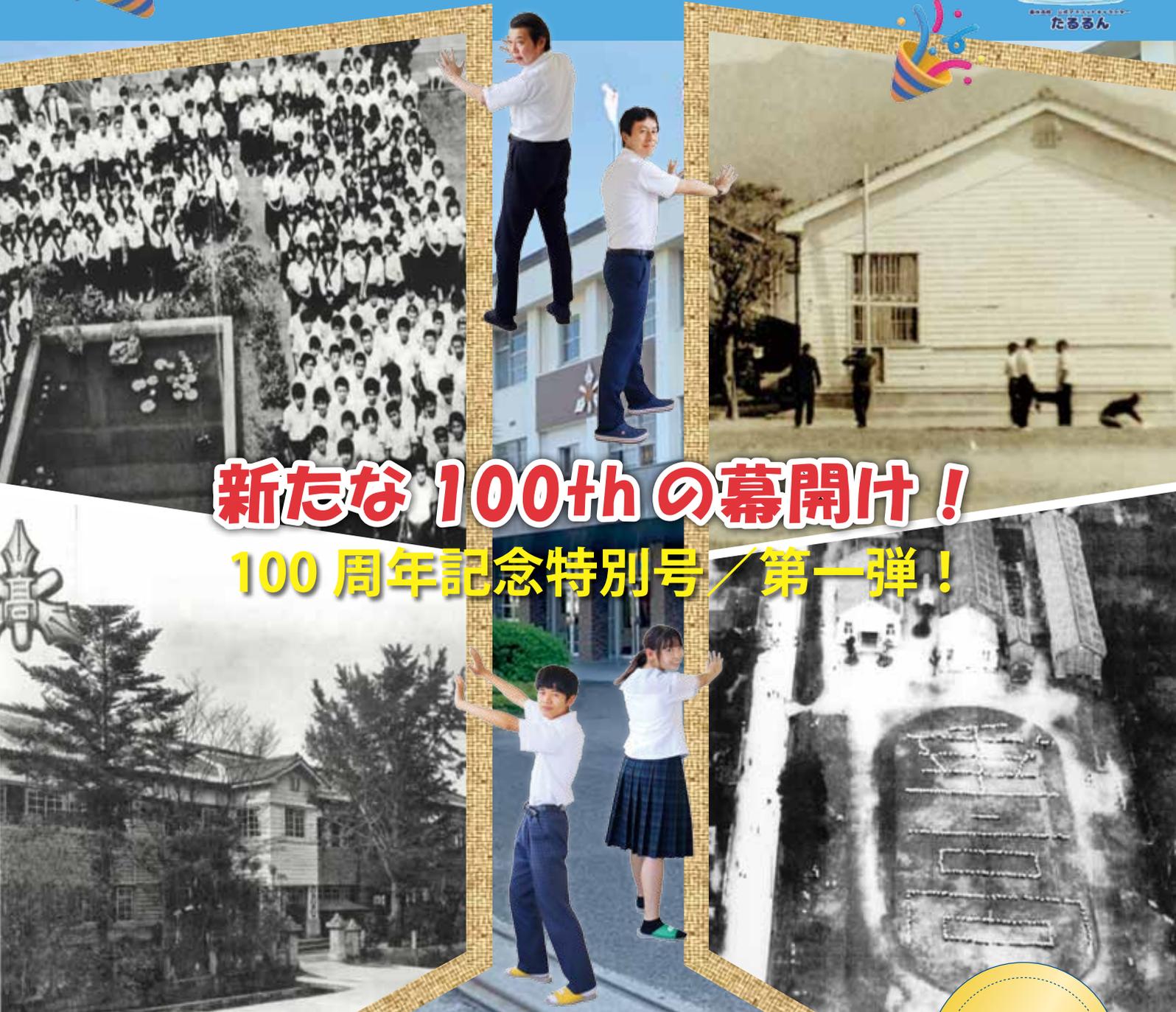


2025
Summer
vol.26



共に歩もう

未来へのステップ



新たな 100th の幕開け！

100周年記念特別号／第一弾！

TAKE FREE

ご自由にお持ち帰りください

君はまだ真の垂高の
楽しさを知らない。

創立 100周年
記念式典

10.25(土)



Contents

垂水高校 100 年の軌跡をたどる!! / P3 ~ P5
(P5 の大正 14 年 2 月からご覧ください。)

同級生の今! / P6 ~ P7

P T A 会長 × 令和 6 年度生徒会執行部対談
/ P8 ~ P10

創立 100 周年記念日講演会 / P11 ~ P17

垂水高校が DX 採択校に指定されました / P18

垂水高校の制服が変わるってよ / P19

創立 100 周年企画・お菓子作り / 生活デザイン科
/ P20 ~ P21

お菓子作り × 21HR / 総合的な探究の時間 / P22 ~ P23



校訓

和 : 明るく和やかに
学 : 真剣に学び
行 : 責任を持って行動する

創立 70 周年を記念して、従来の教育目標であった「明訓親和・学力充実・責任遂行・勤労愛好」の精神を踏まえつつ、新しい時代の要請に応える教育理念として、平成 7 年 11 月 10 日に制定されました。

本年度は 100 周年を迎えます。



垂高フリマガ / TaruTama

本誌「TaruTama (たるたま)」は、垂水市と垂水高校がコラボレーションしたフリーマガジン (フリマガ) です。垂水市が策定した「垂水高校振興支援計画」の「広報・PR 活動」として計画されたもので、その名も「垂高フリーマガジン作っちゃいますプロジェクト」。垂水高校全生徒からプロジェクト参加者を募り、制作委員となった生徒 15 名が夏休み返上で製作に当たり「垂水高校愛」という魂を込めて創刊号を発行しました (平成 24 年 10 月 1 日)。これを機会に、多くの皆様 (特に、中学生の皆様) に垂水高校を知っていただき、少しでも興味をもっていただければ幸いです。

※バックナンバーは、垂水高校公式ブログからご覧いただけます。

◎本誌は垂水市からの広報強化支援により発行しています。

◎企画・発行・取材・撮影 / 垂水高校 (鹿児島県垂水市中央町 14 / ☎ 0994-32-0062)

◎デザイン・編集 / 垂水高校・垂水市 (鹿児島県垂水市上町 114 / ☎ 0994-32-1111)

◎印刷・製本 / (有) 垂水中央印刷 ☎ 0994-32-0315

◎注意 / 写真、イラスト等の無断転載を禁じます。

令和元年9月

同窓会からの寄贈により
空調工事
完了



令和2年11月

内閣府「地方創生☆政策
アイデアコンテスト2020」
九州経済産業局長賞受賞
普通科2年生



2019年・2020年
(令和元年) (令和2年)

令和5年8月19日

特別国民体育大会「燃ゆる
感動かごしま国体」
公開競技 綱引大会
少年女子
鹿児島県B：準優勝
鹿児島県A：第3位
少年男子
鹿児島県：第3位



2023年
(令和5年)

令和5年11月9日

内閣府「地方創生☆政策
アイデアコンテスト2023」
九州経済産業局長賞受賞
九州代表として全国大会
で発表(12月)普通科
3年生



2023年
(令和5年)

令和5年12月

法務省主唱「社会を明るく
する運動」法務大臣感謝
状受領

令和6年1月29日

鹿児島県主催「かごしま
を元気にする学生政策ア
イデアコンテスト」大賞
を受賞 普通科3年生県
知事にアイデアを発表



給食通し地域活性化

2024年
(令和6年)

垂水高校 100年の軌跡をたどる!!

(令和元年～令和7年／創立93年～100年)

P5の大正14年2月からご覧ください。

令和6年3月

全国家庭クラブ連盟「全
国高校生冷凍めん料理コ
ンクール」「垂水発鶏麺」
最優秀賞 受賞



2024年
(令和6年)

令和6年10月

公式マスコットキャラク
ター「たるるん」誕生



制作者
2024年度卒業生
園田 百香

令和6年11月13日

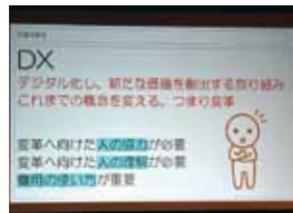
「令和6年度鹿児島県子
どもの読書活動推進優良校」
表彰



2024年
(令和6年)

令和7年4月15日

文部科学省「高等学校DX
加速化事業(DXハイス
クール)採択校に指定



2025年
(令和7年)

令和7年4月23日

文部科学省「令和7年度
子どもの読書活動優良実
践校」文部科学大臣表彰



2025年
(令和7年)

「現在!!」



昭和 23 年 4 月
 県移管と同時に
 高等学校に移行
 全日制（普通科） 242 名
 定時制
 （普通科・農業科・家庭別科）
 272 名
 併設中 105 名
 計 619 名

昭和 23 年 10 月
 校章並びに胸章制定



● 1948 年
 （昭和 23 年）

昭和 24 年 3 月
 垂水高等学校第 1 回
 卒業式

昭和 26 年 10 月
 全国珠算競技大会出場



● 1949 年・1951 年
 （昭和 24 年）（昭和 26 年）

昭和 30 年 9 月 23 日
 創立 30 周年記念式典
 挙行 校歌制定



昭和 31 年 4 月
 鹿児島県立垂水高等学校
 へ改称

● 1955 年・1956 年
 （昭和 30 年）（昭和 31 年）

昭和 33 年



在校生による人文字

昭和 36 年 5 月



庭球部県大会優勝

● 1958 年・1961 年
 （昭和 33 年）（昭和 36 年）

⇒ 昭和 39 年（創立 39 年）
軌跡をたどる！！
 ⇒ 平成 30 年（創立 92 年）

平成 7 年 11 月 10 日
 創立 70 周年記念式典挙行
 校訓「和・学・行」制定
 亡師亡友の碑「追憶」
 校訓碑 設置



平成 17 年 10 月 28 日
 創立 80 周年記念式典挙行



● 1995 年・2005 年
 （平成 7 年）（平成 17 年）

平成 23 年 12 月
 県高校弓道選手権大会
 優勝（男子弓道部）



平成 24 年 3 月
 全国弓道選手権大会出場



● 2011 年・2012 年
 （平成 23 年）（平成 24 年）

平成 24 年 10 月
 垂水市の支援により
 「TaruTama」創刊号発行



令和 24 年 11 月 24 日
 創立 90 周年記念式典挙行



● 2012 年
 （平成 24 年）

平成 29 年 7 月～8 月
 全九州ビーチバレーボー
 ルジュニア選手権大会出
 場（7 月）

ビーチバレージャパン女
 子ジュニア選手権大会出
 場／全国大会（8 月）



● 2017 年
 （平成 29 年）

大正 14 年 2 月

鹿児島県肝属郡
垂水尋常高等小学校
併設実科高等女学校
として

(文部大臣認可)

定員 100 名

修行年数 2 か年

大正 14 年 4 月

小学校講堂西袖 1 教室
を女学校教室に当て、
1 学年 50 名を募集
☆ 31 名入学

1925 年
(大正 14 年)

昭和 5 年 12 月

本館 2 階建て
垂水市中央町 14 番地
に新築起工

昭和 6 年 5 月 28 日

本館落成式挙行
この日を
『創立記念日』とする



1930 年・1931 年
(昭和 5 年) (昭和 6 年)

昭和 18 年 6 月

鹿児島県垂水高等女学校
と改称

4 か年生定員 200 名

2 か年生定員 100 名

計 300 名



1943 年
(昭和 18 年)

昭和 20 年 6 月

本館は海軍病院に指定さ
れたので、しばらく学校
は旧専売所に移転。

8 月 5 日に戦災に遭い、
一切を焼失した。

しかし、本館校舎は戦災
をまぬがれ終戦とともに
復帰した。



1945 年
(昭和 20 年)

ここが始まり!!

上段：大正 14 年 (創立元年) ⇒

垂水高校 100 年の

下段：昭和 40 年 (創立 40 年) ⇒

昭和 40 年 11 月

創立 40 周年並びに
校舎落成記念式典挙行校
旗制定



昭和 46 年 4 月

普通科 1 学級増により
普通科 12 学級
家政科 3 学級
計 15 学級 (生徒数最大)

1965 年・1971 年
(昭和 40 年) (昭和 46 年)

昭和 47 年 10 月

第 27 回国民体育大会ウ
ェトリフティング会場
天皇・皇后両陛下下御来臨



昭和 47 年 11 月 14 日
創立 50 周年記念式典挙行



1972 年
(昭和 47 年)

昭和 51 年 3 月

25m プール及び附属建物
完工



昭和 60 年 11 月 9 日

創立 60 周年記念式典挙行記
念事業として、体育館緞帳、
暗幕、放送設備一式購入



1976 年・1985 年
(昭和 51 年) (昭和 60 年)

平成 3 年 4 月

生活デザイン科設置
家政科募集停止



平成 4 年 3 月

本館正面外壁に校章設置

1991 年・1992 年
(平成 3 年) (平成 4 年)

17 ~ 18



100周年の節目に立ち会い、
卒業生として誇らしいです!!

19 ~ 23



祝 100周年! 輝かしい未来へ、
羽ばたけ後輩たち!

24 ~ 29



祝 100周年!
また皆であつまりましょう!

30



益々のご活躍と発展をお祈りしています。

31 ~ 32



100周年おめでとう。
かけがえのない3年間でした!!

33



学び舎での思い出は、
今も私の宝です。

34 ~ 39



垂水高校 100周年 おめでとうございます。

40 ~ 50



世代を超えてつながる母校。
100周年万歳!



創立 100 周年を記念して、同窓生 100 人以上を写真に収める企画の
第一弾です。100 周年を迎えた垂水高校へのメッセージも頂きました。

写真撮影へのご協力と心暖まるメッセージを寄稿して下さった先輩方ありがとうございました。100 周年が思い出の年になるように、一緒に頑張りましょう。

これからも私たちと垂水高校をよろしくお祈りします!!

第二弾（最終弾）も乞うご期待!!



100th ANNIVERSARY
100周年を記念して
撮影しよう！
100人の先輩を
第一弾

1 ~ 2



私達は、垂高が大好きです！

3 ~ 4



青春を過ごした学び舎へ！
ありがとう!!

5



在学中の皆さん、夢を持って
頑張ってくださいね!!

6 ~ 8



100 周年おめでとうございます！垂高の
ますますのご発展をお祈り致します。

9



100 周年、たくさんの
思い出をありがとう!!

10



垂校の発展と皆様の
ご健勝を祈ります!!

11 ~ 16



100 年の歴史に感謝
母校の発展を願っています。

PTA会長に 聴きました!!



令和7年6月20日に、垂水高校校長室にて、PTA会長に、令和6年度生徒会執行部がインタビューを行いました。

早速ですが、生徒会の方から、PTA会長に、聞きたいことを質問してください。

★垂水高校の印象は？

中村 垂水高校や垂水高校生の印象を教えてください。

会長 私も垂高の卒業生で、皆さんの先輩なんですけど、良い所も悪い所もあまり変わってないっていうのが印象です。懐かしいっていうのがまず一つありますね。教室もそんなに変わってないし、化学室とか、水道とかも全然変わっていなくて、一部分綺麗にはなっているんですけど、懐かしいなっていう印象があります。ただ、生徒たちの印象はすごく可愛い。可愛いなって思います。「垂高の生徒って素直だよな」って。子どもらしい子どもたちが多いねっていうのをよく聞きます。あと挨拶もよくしてくれるっていう風に聞きます。私もそう思うし、他の保護者の方からも、町ですれ違ったりする時もちゃんと挨拶してくれますよって聞きます。小学校の子供たちに「お

はよう」とか、挨拶しているのを何度か見かけたことがあって、そういうのも大事だなって思います。すぐいい子たちだなと思います。私にとっては、みんな、可愛い後輩です。

★100周年でやってみたいことは？

宮原 創立100周年を機に生徒たちと一緒に何かやってみたい活動とかってありますか？

会長 これはPTAと保護者、どちらの立場でお答えすればいいでしょうか。

生徒会 保護者の立場でお願いします。

会長 私は垂小、垂中、垂高出身なんですけど、垂小の時も創立記念の年がちょうど重なって、人文字を作ったんです。校庭に。垂小の学章を保護者と先生と生徒たち、みんなと並んで作ったんですけど、そういう



副会長
垂水中央出身
宮原 由依菜

うのって何かいいなと思って、それがずっと記憶や写真に残ってるんですよ、未だに。卒業アルバムにも載ってて。自分がどこに居るかすぐわかるんです。我が子の隣に行くと、当日参加できた保護者だけなんですけど、事前に声を掛けておいて、この日にこういう風に撮影しますみたいな感じで。そういうのも記念にはなるかなと思っています。やっぱりずっと残るものっていうのが一番いいのかなと思っています。すごく子供たちも楽しそうだったので、そんなものができたらいいなと思って、人数が限られてるので、カードを持つたりでもいいと思います。紙を持って「100」という数字だけでも子供たちが作るとか。そんなのも楽しいかなと思っています。保護者も参加できるし、みんなが一つになっていい思い出作りになると思う



生徒会長
垂水中央出身
中村 心春



PTA会長
前田 愛

ので、とてもいいんじゃないかなって思っています。保護者の方々にもたくさん参加してほしいです。

★会長として大切にしたいこと

宮原 PTA会長として特に大切にしたいことを教えてください。

会長 一つ目は、今まで、子供が小学校、中学校、高校の時に、PTAの係を色々してきたんですけど、活動する中でも絶対というか、自分の中で思っていることっていうのが、「絶対に子供中心に考える。」「子供の立場になって考える。」「子供たちは、これしてもらったら嬉しいかなとかっていうのをまず考える。」二つ目は、大人の意見で言えば、「子供たちが安心して通える学校作り。」「子供たちにとってより良い教育環境作り。」三つ目は、保護者の方々にも少しでも参加してもらいたいです。垂水高校も生徒数が少なくなってきました。

PTA活動についても、世間やニュースでも色々話題になっていますが、その時、その時代に合わせたPTAの在り方を考えていくことも大事なかなと思います。皆で、一緒にとりくめることがあればいいのかなと思っています。

コミュニケーションじゃないですけど、そういうのが大事なのかなと思っています。四つ目は、100周年の年になるので、子どもたちを中心に何か一緒にできたらいいなと思っていますね。五つ目は、家庭と学校と、地域の人たちとの連携、垂水に一校しかない高校なので、みんなで連携して情報も共有できている学校作りっていうのが、理想かなって思います。

★生徒たちに期待することは？

新村 私たち生徒に期待することを教えてください。

会長 十分すぎるんですけど、今の子供たちって本当に頑張ってると思うんですよ。色々な賞をもらったりもしているし。そうですね。期待していることっていうのは次の世代。中学校、小学校の子供たちに、垂高の良い所や魅

力をもっと伝えてほしいです。口頭だけでなく、例えば今みたいに賞を取ったのアピールもすごく良いと思います。私も垂高の良い所を周囲の人たちに伝えていきます。母校なので、すごく大切にしたい学校の一つなので、さっきの挨拶みたいに、小中学生の良いお手本になってほしいです。そういうことの積み重ねが、垂高の良い印象に繋がると思うので、後輩たちを大事にしてほしいと思います。

★生徒会活動は楽しいですか？

それでは、会長の方から、生徒会の生徒たちに質問をお願いします。

会長 生徒会執行部って、活動している楽しいですか？

生徒会 楽しいです。

会長 良かった。それでは、質問をお願いします。生徒会執行部になって、心境の変化とかありましたか。一人ずつ教え



書記・会計
垂水中央中出身
山田 地悠

てください。

中村 学校の生徒の中でリーダーっていう役に付いたので、以前より周りを見るようになって、今までは、気付かなかったことも結構見えてきたのになって思います。

宮原 特に心境の変化というものはないですが、責任感を持つようになったなと思います。

新村 人前で話もできるようにもなったので、成長できたと思います。

山田 実際に生徒会の仕事をする中で、責任の重大さを感じられるようになりました。

会長 素晴らしい回答ですね！

★どうすれば、生徒数が増える？

会長 どうすれば、生徒数が増えると思いますか。

山田 新たな魅力を作るしかないと思います。



副会長
花岡中出身
新村 京一郎

会長 そうだよね。魅力をつくるって

大事だよね。垂高にしかできないこと、

これ垂高にしかないよねっていう何かがあれば、すごい魅力につながるって私も思います。多分みんなも色々と考えているんだけど、それがなかなか実現しなくて大変な思いをしていると思うんだけど、他に、何かないですか。垂高でしかできない、独特の何かだと思っただけ。」「垂高に行っただ。あれがあるよね、いいよね」とか、そういうものがあれば、多分来る人も増えるだろうと思うんだけど。

新村 体育祭が、半日。

山田 100周年という節目の年を迎えるので、校則とか色々変えていったらいいと思います。そうすると、生徒数も少し増えるのではと思っています。例えば、バイクの免許がとれるようになるとかは、良いと思います。



★垂高に何かあったら嬉しい？

会長 確かにねー。ただ、ちょっと弱いな。じゃあ、聞き方を変えて、学校に何かあったら嬉しい？ここにこれが付いたら、こんな部屋があったらとか、こんなサービスがあったらとか。ないですか。

★制服は関心が高いと思います。

中村 制服とかですかね。

会長 制服、大事だよね。まずそこだよね、女の子ってね。

※制服については、p19を参照してください。

★垂高が更に良くなるためには？

中村 垂水高校が、もっと良くなるためには、どういうことをしたらいいと思いますか。

会長 評価委員会でも何度か言ったんですけど、学校説明会もあるんですけど、保護者の方々の理解に、今一つ繋がっていないなと思っています。もっと中身を伝えてほしいなと思って。ただ普通科とデザイン科がありますだ

けじゃなくて。もっとやってる中身を伝えてほしい。あと、知り合いのお母さんたちが言うには、生の声、学校で実際に学んでいる子どもたちの声が一番分かりやすく、娘に質問した時に、「あ、良かった聞いて」と言っていました。本人たちが答えるのが一番いいのかなと思っています。保護者の方々も先生たちには聞きづらいついていうのもあると思うんですよ。

人数を増やすには、お母さんたちの心を掴めばいいのかなって思っています。息子は、他校に通っているんですけど、垂高は、金銭面でもですけど、朝もゆっくりだし、本当に助かっている。今度100周年で色々とするということなので、すごいいいアピールポイントにもなると思っています。お菓子を作ったりとかすると聞いていますが、100周年行事のこともっと広めたいですね。

※お菓子作りについては、p20〜23を参照してください。

司会 広まっていらないですか。

会長 広まっていらないですね。本当に、100周年何かするの？って、林先生は知っ



てるんですよ、みんな。あんなに出るので、宣伝効果があるので。だけど後は何も知らないんですよ。あんまり話が出てないので。もっと中身が見えるようにしてほしい。保護者だけでなく、子供たちにも。そして、皆で、素晴らしい100周年の年度にできたかなと思います。同窓会、PTA、生徒、学校、皆で、素晴らしい100周年にしたいですね！

創立記念日講演会が開催されました！

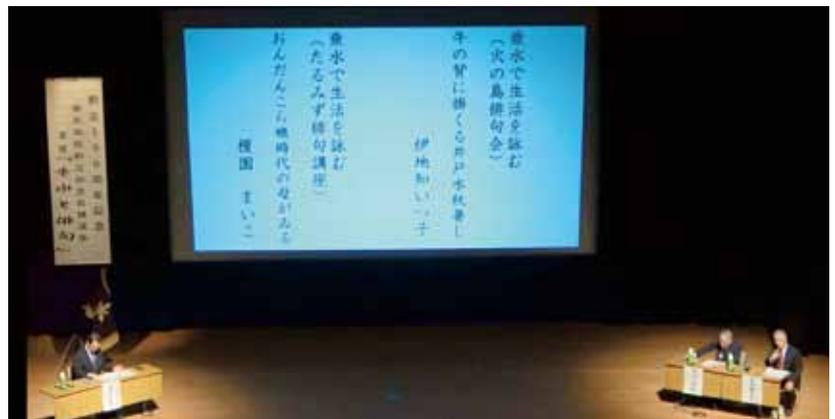
5月28日、垂水市文化会館にて垂水高校創立記念日講演会が開催されました。本講演会は、俳句を通して垂水を語るという「垂水と俳句」をテーマに、垂水の生活、自然、歴史を俳句で紐解く三部構成で会が進行されました。垂水高校生のほか、火の島俳句会やたるみず俳句講座の方々の俳句も披露され、地元への深い知見と愛情あふれる19の作品を通して、垂水の魅力を再認識することができました。アカデミックで感慨深い創立記念日講演会となりました。

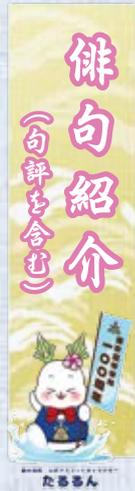


コーディネーター
第37代校長
鎌田 政司

講師
第27代校長
丸山 眞

講師
元PTA会長
瀬角 龍平





同窓会長挨拶の俳句

海光や垂水港にぶり踊る

堀内 貴志

【堀内 貴志】

私たちの母校は、垂水の自然と共に歩んでまいりました。目を閉じれば桜島を望む校舎の風景。海から吹き込む潮風。遠くに聞こえる漁船の音。その一つ一つが心の中に今でも蘇ってくるような気がいたします。この度の講演のテーマであります「垂水と俳句」はまさに、大切にしてきたものが重なるような、そんな気がいたします。俳句とは自然や日常の一瞬を捉えて十七音に閉じ込める芸術であります。その根底には土地を愛し、季節を感じ、人の営みに目を向ける温かい眼差しがあります。例えばこんな句を詠んでみました。「海光や垂水港にぶり踊る」、これカンパチでも良かったんですが、あえてぶりにしてみました。これは、垂水の港にあがるぶりの養殖と海に反射する光のきらめきを詠んだ一句であります。この地で暮らす人々の息遣いまでもが聞こ



えてくるようなそんな一句にしてみました。俳句は、小さな言葉に故郷への思いを込められるものであります。卒業して各地に散らばっていた同級生もふとした時に、一瞬、一句を読むことで、垂水や母校を思い出すのではないかとこの風に思います。一〇〇周年という歴史の中には数えきれないほどの汗と涙、出会いと別れ、そして、努力と夢が積み重なっています。今ここにある母校の姿は、地域の皆様方や、そして先輩方の熱意によって築かれたものであります。その思いを私たちも受け継いでいきたいと思えます。これからも垂水高校が、垂水市という豊かな土地に根を張り、次の一〇〇年に向かって輝き続けることを心より願ひご挨拶いたします。

丸山先生自己紹介の和歌・俳句

石ばしる垂水の上のさわらびの
萌も出づる春になりけるかも

志貴 皇子

【丸山 眞】

垂水に着任が決まったときに第一に頭に浮かんだのは、この志貴皇子の歌でした。勢いがある水にちなんでい

火の島を廻る赴任や遠霞

丸山 眞

着任したころ作った俳句に、「火の島を廻る赴任や遠霞」というのがあります。春なので霞がかかりますけど、「遠霞」という季語のなかには、何か私の不安とか期待が込められている気がします。桜島を廻って赴任しました。もともと鹿児島市の生まれで、国分からきましたので、まさに火の島を廻る赴任でした。



夏霧や水の垂水水うまし

丸山 眞

垂水に来てしばらく経ちますと、垂水が非常に霧とか霞とか水にゆかりのある所で、しかもその水が全国どこに出してもいい、素晴らしい水の町であることに気がついて垂水の水は美味いとその美味さの中には、水以外のものもイメージとして込めたつもりでした。

瀬角先生自己紹介の俳句

浜防風浜は円弧を描きけり

瀬角 龍平

【瀬角 龍平】

市役所を退職してもう十年になりました。市役所ではなかなか俳句は作れなかったのですけれども・・・この「浜防風浜は円弧を描きけり」と

いうのは海鳥の様子です。昔、海鳥の浜は長かったのです。本当に円弧を描いて、人を呼び込むような・・・。「懐かしい、ああ、こういう浜だったのだよな。」という思いをしながら作った俳句でした。



垂水で生活を詠むー垂水高校ー

ふるさと俳句コンクール

来年は思い出になるこの花火

前田 結

【瀬角先生評】

ふるさと俳句コンクールの選にあたっては、私です。俳句についての取組を垂水の教育委員会が行っているというのがすごいことだなと僕は思っています。そのふるさと俳句の去年の俳句で特選に選ばせてもらった一つです。前田結さんの「来年は思い出になるこの花火」。垂水は、夏のフェスタというのがあるのです。ついつい私たちは、夜空に大輪の花火が開くとか、そして、そういう場合は、必ず浴衣を着て、それで手には団扇(うちわ)を持ってとかいうようなテーマにしますけれども、これは、確かに綺麗な花火を見ながら感動しながら、ふっとこう「待てよ。そういえば、この綺麗な花火も、来年はもう思い出になるんだよね。」というそう一歩進んだところがこの句の

良さだと僕は思って、前田さんの句を選んだんですね。綺麗なことをそのまま詠むということもそうですけど、これが今度は、ふっとこう感慨を含んで、切なさも含んでるなということを感じたのです。

【丸山先生評】

その切なさとの語呂合わせではないけど、いわゆる刹那とか永劫という言葉があります。人生というものは、今があって、そして、必ず明日がある。そして、昨日もあった。そういう風に移り行くのが人生ですけども、これをこの方なりに感じていらっしやるのではないかなと思います。つまり、青春のひと時、これは美しい花火、しかし、また、これは来年は思い出さなくていく、それを重ねるのが青春であり、人生である、そういうことを考えさせてくれる素晴らしい俳句だと思います。

【前田 結】

小さい時から、高校生の時とかも、花火を何回か家族で見に行ったことを今でも覚えてるんです。花火というのは、色々な色の花火が、空にぱつと花が咲いているように輝いているイメージとかが小さい頃は強かったんですけど、年月が経っていくうちに、時間が経って花びらが散っていく花と違って、花火には一瞬にして消えてしまうような、悲しさも感じるようになってきたなと思います。

そのような思いも含めて、自分の思い

出を残すためにというように、いろいろな思いも込めてこの俳句を仕上げました。



将来の夢はまだです 鯛雲 浅田 青龍

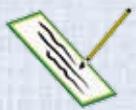
【瀬角先生評】

「将来の夢はまだです 鯛雲」浅田青龍さんです。これを詠んだときに、僕はもう笑ってしまったんですけど、この俳句の良さは、やっぱり「将来の夢はまだです」という口語が使っているという点なんです。ついつい私たちは、「将来の夢は未だし」とか「将来の夢が決まらず」って使ってしまうんですよね。二年生の浅田さんが「将来の夢は実はまだなんです。」と言っている。その青春というか、若さというか、そういうことで僕は、もうびっくりしました。「将来はまだ決まっていなくて、少し肩の力を抜いたのが良かったなと僕は思いました。今、二年生って言ったのはですね。僕自体も高校生三年間ありましたけど、やっぱり二年生ってというのが一番自由だったなという思いがあるんですよ。だから僕は「将来の夢はまだです 鯛雲」高校二年浅田青龍って詠みたいんですよ。これが「将来の夢はまだです 鯛雲」高校三年ってなると、まだ決まっていないうかという形で困りますけど、二年生ってやっぱり、特

殊な時期かなと僕は思いました。

【丸山先生評】

そうですね。同感なんですけれども、今、俳句は、文語で作っている仲間が多いです。高校生ですから、こういう感じがいいんですが、例えば、「将来の夢定まらず 鯛雲」とかそういう風に詠んだ時にどういう印象を受けるかということを考えてみられてもいいかと思うんです。鯛雲を詠んだ作品を辿ってみますと、例えば、加藤楸邨という俳人がいたんですが、「鯛雲人に告ぐべきことならず」という俳句があります。つまり、加藤楸邨は鯛雲を見ていて、ずっと繋がっている雲の波を見ていて、自分が今度は心に秘めている人に告げるべきことがないというものがあって、そういう自分の内面を詠んでいるんです。鯛雲を見ながらですね。内面を詠むという俳句が非常に多かったように思います。そういう意味では、この浅田さんの俳句もそういう名句の列に連なって行くのかなという感じがあります。それから、やはりこの句は、今も言われましたけど、青春性って言うんですかね。この青春の時でないといめない俳句ですね。だから、垂水高校の皆さん、なるべく大事な今の青春の高校生のこの時をぜひ俳句に詠み続けていってほしいなと、この俳句から推して思うことです。



【浅田 青龍】

この句は、将来という不透明な未来を、その時の天氣の鯛雲を使って、青春ならではの不安や希望を俳句で表現しました。



垂水で自然を詠む —火の島俳句会—

万緑に染まり山彦かへりくる
尾崎 久子

【丸山先生評】

「万緑」というのは、草も木も全部緑になって、山一面全て緑になっているという状態で、これは季語としてあるわけですけど、これが優れている。新しいのは、普通は山に向かって「ヤッホー」とこだまを呼び、こだまが返ってくるのを楽しむという習慣がありますが、尾崎久子さんは、山彦が帰ってきた、山彦というのをまるで人のように擬人化して人になぞらえて詠んでいますね。「山彦さんという方があって、この人が山に行つて、万緑に染まって、緑色になって帰ってきた。」という風に詠んだわけですね。したがって、擬人化することで人物が登場し、そして単なる写生ではなくて、そこに「動き」をもたらしてきた。それで名句が生ま

れた。しかも、山彦から連想するのは、海幸彦とか山幸彦とか、このいわゆる日本書紀とか古事記とかそういうものに出てくるような神様たちの名前であるわけです。山の妖精とも言われていますけど、その色々な、個人的なイメージを伴って、猿ヶ城の自然を詠んだというところが素晴らしいかなと思います。

【瀬角先生評】

「万緑に染まり山彦かへりくる」は、山彦という反射が緑に染まるというこの表現に、僕はたまがりました。音が染まるというこの感覚ですね。これは、今来ていらっしやる高校生は、こういう感覚を学ばないといけないと思いますし、もう僕はこれにびっくりしました。感覚は交錯するんですね。そういうことを僕はこの俳句に学びました。



源流は水の鳴る河鹿笛

尾崎 久子

【丸山先生評】

河鹿笛（かじかぶえ）というのは河鹿蛙の鳴き声です。猿ヶ城では、河鹿蛙が鳴くことがあります。水の喝采っていうのも、水たちが、猿ヶ城の素晴

らしい自然に、その源流を見て、さかんに褒めているということだと思います。素晴らしきと言って、本城川の源流が素晴らしいと言っているということだと思います。



【瀬角先生評】

猿ヶ城では発見があるんです。これも、水も手を打って喝采しているけど、やっぱり尾崎さん自体の喝采でもあったんじゃないかな。猿ヶ城に対する深いエールではないかなと僕は感じましたですね。

溪流に藍より青き糸蜻蛉

森 早也子

【丸山先生評】

これは森早也子さんという垂水にお住まいの私たちの仲間の方が作られた俳句です。溪流っていうのは谷川を流れている河です。そこで飛んでいる糸蜻蛉（いととんぼ）の色は、「藍より出て、藍より青し」ではありませんけれども、本当に猿ヶ城の山の色、水の色にふさわしい綺麗な色。それでそのように詠んだんですね。そのことで同時に猿ヶ城の自然がどんなに素晴らしきものであるかっていうことを私たちが感じることができます。

【瀬角先生評】

猿ヶ城には、たくさん湧があります。その夏の時の青さというのは、是非、見てもらいたいです。「深い藍よりも青い糸蜻蛉が生まれた」これも大きな発見だと思えますし、しっかり対象を見るところ、そのことを、僕はこの俳句に教えられました。

【森 早也子】

この句は、瀬角さんがご紹介くださったように猿ヶ城溪谷の吟行句でございます。これは、猿ヶ城溪谷のほとりで見かけた美しい糸蜻蛉の風景を詠んだものです。溪流で見た糸蜻蛉の色を「藍より青き」としたのは、「藍の色」さらにそれよりも青く」という意味で強調したものです。そういう思いでつくりました。「溪流に」ってしましたのは、溪流のそのままの景を一行詩に仕立てたものです。



銀杏落葉地に束の間の日のかけら

野間 妙子

【瀬角先生評】

千本銀杏というのは、もう垂水の大きな名勝の一つになりました。県外でも有名です。中馬吉昭さんという方が何十年かけて作り上げた銀杏園ですよ

【丸山先生評】

ね。「実は私は東京の出身です。」という中馬さんに「なんでこの銀杏園を作られたんですか？」と聞いたら、「自分は東京の大空襲をお母さんの背中で見ただ記憶がすかに残っている。」と。その後、「焼け野が原の中で大きな飢餓を体験した。」という話でした。お母さんに手を引かれてですね。遠くの農村に行つて、そして、「筍生活（たけのこせいかつ）の中で体験した、あのひもじい思いをもう絶対忘れることはできない。」と。それで千本銀杏を植えたのは、「みんなが見て楽しい銀杏を植えるのはどうだろうか。ひよっとしたら飢えの一助にもなるかもしれないし、銀杏もできるしね。」と。そこから始まったんだということを聞きました。だから、一朝一夕にはできていないんだなと思いがあふれます。けれども、この「銀杏落葉地に束の間の日のかけら」これはですね。ゆつくりと時間をかけてお日様のエネルギーを使って、日の光を集めて、黄色くなるんですけど、最後に地に落ちて、土に帰っていくという、そういう束の間の、この日のかけらなんだなという風に僕は思っただんですね。そういうところがもうすごく良かったと思います。

感想は、ほとんど瀬角さんと同じです。この俳句は、どの世代の人が見ても色々なことを感じる。私なんかもう、いわゆる人生の晩節に入っております。そうするとですね、束の間という言葉がピンと心に響きます。今、束の間

を生きるとなると感じがするせいでもありません。そして私たちは、この短い間を生きながら、人生を送っているんですけれど、これはですね、さつきも瀬角さんが言われましたけども、太陽光、つまり、木漏れ日が黄色の落ち葉の敷き詰めている所に当たっている。それをかけらという風に硬質の目に見える、形あるものとしてこの句を詠んでいるというこの感覚がすごいなと思います。優れた写生の俳句というのは、ただ写生をしている。もちろん、写生をすることは修練としても大事です。俳句が上手になるためには、絵も描かないといけないし、音楽もしないといけないんですが、そういう色々な感性を磨く機会を得ることが大事ですが、このそういう「日のかげら」という風に感じ

るためには、それなりの写生の訓練を積んでいるということがあると思います。名画の一幕、名画そのものを見るような感じの写生の俳句です。



千のいろ奏で千本銀杏散る
板坂 良子

【瀬角先生評】

たくさん千本銀杏の落ち葉が降ってくるわけですね。ああいう中を歩けば、すごくいい気持ちなんですけれども、その中でそのただ散るばかりじゃな

くって、一枚一枚の葉っぱが、それだけの色を奏でる。色を見せるだけじゃなくて、視覚じゃなくて聴覚も交えながら「実はこういう生き方をしたんだよ、こういうこともあったんだよ。」と言いつつ、耳元の周りを散っていく。そのことが、すごく感覚が良かったなという風に思いました。これはもう感覚というのは年を取ったとか、若いからということとは関係ないということを感じた句でした。

【丸山先生評】

この銀杏が散っている様子は綺麗ですから、それは目で視覚で捉えるわけですが、その色をそれぞれの色を音楽として奏でているという部分に聴覚的な表現をしたところ、これも垂水高校生の皆さん方も随分、参考になさっていいんじゃないかと思えます。で、やはり感覚というのは、お互いに、視覚、聴覚、触覚、色々なものが交錯して出来上がっていくとそういうものだと思います。これは、少し深読みかもしれませんが、垂水ということ



は、瀬戸口藤吉も生まれた所だし、和田英作も生まれたところだと聞いてい

ますけれども、そういうような感覚を磨く風土があるのかと思ったりもします。でも、誰しもができないと思いません。

【板坂 良子】

垂水に行つてこの千本銀杏を最初見たときにはもうすごい。やっぱり千本ですからすごい感動しました。そして、この銀杏を植えられた中馬さんというご夫妻のことを思いました。最初の一本を植える時に、どんな気持ちだったんだろうかなと、それから一本、一本の千本の銀杏を子育てのように育てていたのかなと。だったら、私たち人間は、それぞれに個性があるので、この木の一本一本にも個性があるんじゃないかと。そして、その銀杏の葉が落ちていく。その一つ一つが、とても綺麗だったんですけど、本当にそれぞれの色が音を奏でているような、そのリズムを感じて、このような俳句ができました。

垂水で歴史を詠む

―たるみず俳句講座―

つわものの守りたる坂や冬日向

山ヶ城 芳子

【瀬角先生評】

「昔、つわもの（武士）たちが守った城が、今はこうして冬の日差しを浴びているよね。」という歴史的な背景も感じられる句になっています。昔は、兵

士たちが勝鬨を上げたり、そして鬨の声を上げたりしたんだなと。そういう時空を、歴史を遡るということが感じられる句だと思いました。

【丸山先生評】

全く同感ですね。で、「つわものの守りたる坂」の「たる」というのは文法的には「守っている」という意味です。「守った」とは書いていないです。ただ、ずっと強者たちが守り続けてきた坂なんです。で、今年は今年の冬日が当たって冬の温かい光景になっているというところで、先ほどの垂水高校生の生徒さんの俳句と同じく、やっぱり時に対する意識が中に含まれている感じがします。

【山ヶ城 芳子】

こんなの選ばれたことは初めてなので、ドキドキしています。この句を作ったのは、吟行に行つて、「あ、ここが坂だ。」とか、ここを通つたんだというのを見て、「どんな戦だったんだろか。強者たちが必死で守つたんだろな。」と思つて作りました。

お長屋の重ぬる月日冬日差し

寺山 紀子

【瀬角先生評】

お長屋はもうご存知ですね。垂水高校生は特に、目の前に垂水小学校の校門の近くにありますが、「お長屋の重ぬる月日冬日差し」ちゃんまげを結つて、二本差し、刀をさしていた武

士たちもいた。そして、現代までの流れも見えてきた。四百年の月日を重ねているわけですから、そういうことを見ているという歴史的な背景と、今はこうして穏やかに立っているという古いお長屋の眺めですね。おそらく寺山さんもそういうことを感じられたのかなと思つて。僕はいいなという句の一つでした。



【丸山先生評】

この「お長屋の」の「の」という助詞の働きが大きいですね。これはお長屋が重ねている月日なんですけど、人々が努力してそのお長屋を守ってきたこともありますが、お長屋そのものが月日を重ねている。これは非常に歴史の深さを感じさせますね。

【寺山 紀子】

重ねている月日の中に、お長屋も朽ちていくんですけど、冬日差しは、優しく照っているなと思つて、この句を作りました。



垂水で生活を詠む

―火の島俳句会(伊地知いつ子)―
―たるみず俳句講座(榎園まいこ)―

牛の背に掛くる井戸水秋暑し

伊地知 いつ子

【瀬角先生評】

伊地知さんは農家です。牛を飼っています。「秋暑し」というのはですね。秋の暑さ、残暑とか言いますね。残暑は、普通の夏の暑さよりも暑いって言います。もちろん人間も暑いんですけど、飼っている牛も暑いだろうということ、その牛の背に水をかけている。水道の水ではなくて、井戸水です。こういうところで、垂水の郷土性というか、非常に出てきます。そして、人間もそうだけど、牛の背も暑いだろうということ、牛に注ぐ愛情、そのことも是非、感じてもらいたい。すごく、私は、郷土愛ということ、いいなあと思つてですね、入れ込みました。

【丸山先生評】

井戸水がいいですね。そして、垂水の自然を詠むだけでなくて、垂水で暮らしている人、特に、農業とか漁業とかに携わっている



る人たちが、その生活をその俳句の中に詠んでいくということは大変価値のあることだなと思いました。僕は、今の垂水にしかない行事、そういうものを思いの中に刻んでいけるといふのは、これまた素晴らしいことだなと思いました。

おんだんこら娘時代の母がるる

榎園 まいこ

【瀬角先生評】

おんだんこらは、毎年四月の四日に行われていましたが、今は四月の第一週、土曜日にある、春のお祭りですね。ちようど子どもたちも春休みということですね。このおんだんこら祭りというのは、白山祭りとも言います。これも島津が入る前の伊地知家のお祭りの一つです。それがずっと続いていますが、いろんな出店が出たり、そして踊りがたり、歌があったり、子どもたちにとっても、私たち大人にとってもそうなんですけど、ああ春が来たんだなあというメリハリのきく行事です。垂水ならではの。そういう経験をしたお母さんと、そして、自分とおんだんこら祭りに行ったときに、ふと見たら、お母さんの眼が非常にきらきらしている。普段見たことのない娘みたいな顔つきだなというそういう発見なんです。そういうことで僕は、ああいいなあと思つて、感じています。



講師挨拶の俳句

文行館寒の素読の声ろろふ

瀬角 龍平

【瀬角 龍平】

江戸時代の鹿兒島の藩の学校は造士館といひます。一七七三年にできたそうです。その三年後に、薩摩藩の中で二番目に、垂水の文行館というのがかという、士族の武士の子弟を呼んで、そこで学問を教えた。四書五經、論語とか孟子とかです。あと、習字。論語とか孟子とかは、その内容を勉強するのもそうなんですけど、最初は、素読といひて、先生が読めば、生徒はそれを繰り返す。それを素読と言います。そういうところから学問は始まるわけですね。それを昔の学問所であった文行館で皆、正座をして、先生と対面をして、そういう素読をしている。そして、その声がどんどん揃っていくという、そういう様子を想像して作つたんですね。文行館というのは、垂水の学問の発祥で、それを受け継いでいるのが、垂水小学校であり、垂水高校であると思つてですね。そういうことも私の脳裏にありました。そういう思いでこの句を作りました。一七七六年というのは、垂水の領主は、島津貴澄という人で、この人は、漢詩もできるし、和歌も作る。それで、領主が作るものだから、家

臣たちも漢詩を作る。そして、和歌も作る。一時、垂水は文教の地として非常に有名だった。そういう時代があったということ覚えておいてくださいね。

木仏の炯眼著し竹の秋

丸山 眞

(注) 木仏……県内最古の木仏像で

ある勝軍地蔵のこと。

炯眼……眼力が鋭いこと。

著し……はつきりしていること。

【丸山 眞】

この新しい形の講演会を立ち上げて軌道に乗せて、そして、皆さんに公開する形ができたというのは、ひとえに鎌田先生のお力のおかげでもあります。縁の下の方力持ちというように、舞台の係の方を始め、教頭先生、その他、いろんな人たちの協力をいただいて、この会ができたのかなと思って、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、何よりもお見えになる方がいないけれど、こういう講演会は成り立ちませんけれども、生徒さんたちも少人数の学



校にはなっているけれども、一人一人が一騎当千の気持ちで、こういう講演を聞いていただいたこともとてもありがたいです。是非、垂水高校の皆さん、頑張ってください。一人一人が五人分ぐらいの勉強やスポーツ、文化に励んでいただきたいなと思います。一つの反省とか、これからの点では、火の島俳句会の人たちを中心にしながら、瀬角先生が担当していらっしゃる垂水の俳句講座の方たちの作品をもとにして、垂水を詠んだ作品が紹介されていったわけですが、もちろん垂水に住んでいて、俳句を作っている方は他にもいっぱいいらっしゃるわけで、そういう人たちの作品もあるだろうし、また、私たちが気付かないところに、そういう作品が埋もれている可能性もあるわけなんです。そういうものも発掘しながら、そして、お互い情報を交換し合いながら、垂水の俳句の文化がもっともっと充実していけばいいかなと思います。そして、この垂水に住んでいる、生活しているという喜び、喜怒哀楽を、是非、俳句に残していく人たちが増えていけることを望んでおります。そして、私が垂水高校に三十年くらい前に働いていたわけなんです。懐かしくていっぱいなんですけれど、この垂水高校というところは、やはり深い伝統、深い歴史、そして、垂水の深い自然、その中でしっかりと存在している学校であってほしいと思います。今、段々、子供さんの数が少なくなっています。高校生の数も少なくなっています。けれども、長い歴史を深い歴史を、い

ろんなこういう周年行事の機会に学ぶことによって、自分たちがこの地域を中心になって起こしていくんだ、この地域を自分たちが背負っていくんだと、そういう気持ちで頑張っていっていただきたいなと思います。新しい時代は誰が作るか。結局、歴史が作る、自然が作る。要するに、そこに住んでいる人が作っていくんだと思います。だから、風土は人間が作っていく。そして、一人よりも二人、二人よりも三人という風にみんなが手を組んだらいろんなことができると思います。是非そういう意味で垂水高校の更なる発展を、ちょっと口はばつたいですが、念じて祈って私の最後の挨拶とさせていただきます。

校長挨拶の俳句

子を抱き駆くる漁師や運動会

鎌田 政司

【鎌田 政司】

この句は、牛根小学校に呼ばれた時に作りました。牛根は漁師町だと思えました。小学校の運動会では、普通、万国旗です。ですけど、牛根小学校では、万国旗に加えて大漁旗がいくつも飾られているんです。なるほど、土地柄だなと思いついて見ました。親子かけっこです。親が子どもをおんぶしてもいいし、抱えてもいい、そんな中で力強い漁師さんが、子どもを抱いて駆け抜けていく、ああ、力強い、いい学校だなあと思って作ったのがこ

の句です。



生徒会長挨拶の俳句

百とせの縁を繋ぎて風渡る

中村 心春

【中村 心春】

この一句には、百年の節目を迎えた垂水高校が、多くの皆様との縁によって支えられてきたこと、そしてこれからもその繋がりを大切にしながら、新たな歴史を紡いでいきたいという願いを込めて作りました。



DX 採択校に指定されました!

垂水高校が、2025年度のDX採択校に指定されました! 今後、垂水高校のDX化が加速します!



創立100周年記念講演
演題 「DX時代における人生のプロジェクトマネジメント」
講師 城西大学副学長 栗田 るみ子先生

DX 高校のシステムが 変わる?



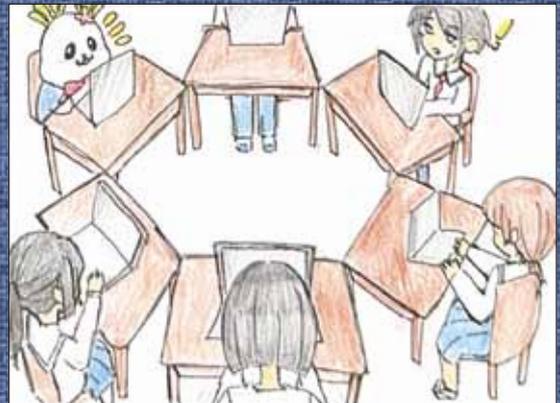
天井設置型プロジェクターでの投影



生徒たちの『積極性』・『理解度』もUPする?



電子黒板を用いた学習



集団解決のタブレット学習

DX 移行のイメージ

(イラスト 12HR 武田乃郁)



DX 化とは



デジタル化し、新たな価値を創出する取り組み。これまでの概念を変える。つまり、『**変革!**』

□ 変革へ向けた人の『**協力**』が必要!

□ 変革へ向けた人の『**理解**』が必要!

垂水高校の『制服』が変わるってよ！

100周年を機に、2026年度／来年度から、制服も新制服へとリニューアルします。

約30年ぶりとなる新制服の候補を生徒たちにも実際に見てもらい、感想や意見をもらいました。お披露目は10月25日(土)の創立100周年記念式典で行われます。どんな制服になるのか、想像で胸をふくらませて、お待ちください!!



“新制服の候補を見た後に、先生方に自分たちの意見を伝えました”

VOICE OF 垂水高校生 (事前アンケート含む)



- ・ブレザーの生地が良い
- ・シンプルでいい
- ・スラックスがモノトーンで良い
- ・灰色のスラックスの方が良い
- ・チェックの色がはっきりしていて良い



- ・ズボンの柄が変わって良いと思う
- ・ジャケットの質がとてもかわいいと思った ⇒ **採用!**
- ・スカートのチェック柄がかわいい



- ・紺色と灰色が良いコンビネーション ⇒ **採用!**
- ・色の統一感があってとても良いと思う ⇒ **採用!**
- ・スラックスの色があまり…
- ・ズボンがチェックじゃない方がいい



- ・左胸に今と同様のロゴがほしい ⇒ **採用!**
- ・チェックの色がもう少しいいほうが良い ⇒ **改善!**
- ・私立の高校みたい ⇒ **改善!**





鹿島シェフとの意見交換



私たちは、試作で取り組んだお菓子について、商品化するためのアドバイスをいただくことができました。また、他に作りたいお菓子はないかを聞かれたので、せっかくなら、今までつくったことのないお菓子を作りたいと思い、ガレットブルトンヌ・フロランタンに挑戦することにしました。垂水の特産品として、つらさげいもを使うことにしました。



イチヨウの型ぬき
してみました。



アーモンドの代わり
に、いもけんぴ
使ってます。



やきいものペーストを
重ねたり、びわジャム
をぬってみたいり…



どれがおいしいかな？



第73回プロスペール・モンタニエ フランス料理国際コンクール準優勝
鹿島匡人シェフとのスイーツコラボ企画!!



鹿島シェフとのスイーツコラボ企画がついにスタートしました。昨年度、垂水市の食材をふんだんに使用したフランス料理の出前授業を提供していただいたご縁もあり、この企画を快くお引き受けいただきました。

生活デザイン科では、家庭クラブ活動の一環として、スイーツ開発に携わることになりました。鹿島シェフのご意見をいただきながら、自由にアイデアを出し、商品化を目指していきます。



まずは、フランスの焼き菓子の中から、マドレーヌ・ラングドシャを作ってみました。垂水の特産品として、いんげん・びわジャムを使うことに決め、千本イチヨウが有名なので、イチヨウの型も使ってみることにしました。



左：プレーン生地・チョコ・びわジャム
右：ココア生地・ホワイトチョコ・びわジャム



生地にいんげんペースト入れました



イチヨウの型に
してみよう



チョコやびわジャムは
さんだり・のせたり





私たち渉外班は、垂水高校の100周年を祝し、鹿島シェフと垂水高校生が協力して制作するお菓子のパッケージとキャッチコピーを手掛けています。何度も重ねた話し合いや試作から得たインスピレーションを活かし、一度しかない100周年に相応しいものになるよう熟慮中です。

私たちの思いが詰まったお100周年記念お菓子をぜひ、買ってください。



普通科2年
垂水中央中出身
川田 萌衣



キャッチコピーとパッケージデザインにも挑戦します！





創立100周年記念
お菓子作り

× 21HR

{ 動画作成 (全国大会出品予定)
パッケージデザイン

21HRの生徒たちが、総合的な探究の時間の一環として、動画作成とお菓子のパッケージづくりに挑戦します。動画やパッケージは、本校創立100周年を記念して、生活デザイン科の生徒7人が鹿島シェフとコラボしてつくるお菓子に関するものです。どんな動画やパッケージができあがるのか、今後の21HRの動向に注目です。ご期待ください！



鹿島シェフと生活デザイン科の打ち合わせを潜入撮影！



現在、動画の制作はまだ途中段階ですが、少しずつ形になっていく過程にワクワクしています。自分たちのアイデアが映像として表現されていくのは新鮮で、やりがいを感じます。大変なことも多いですが、最後まで妥協せずに納得のいく作品を完成させたいです。チーム全員で協力し、見てくれる人の心に残る動画を目指します！



普通科2年
高山出身
益山 颯太

垂高には
今、これも
あります

supported by tarumizu city

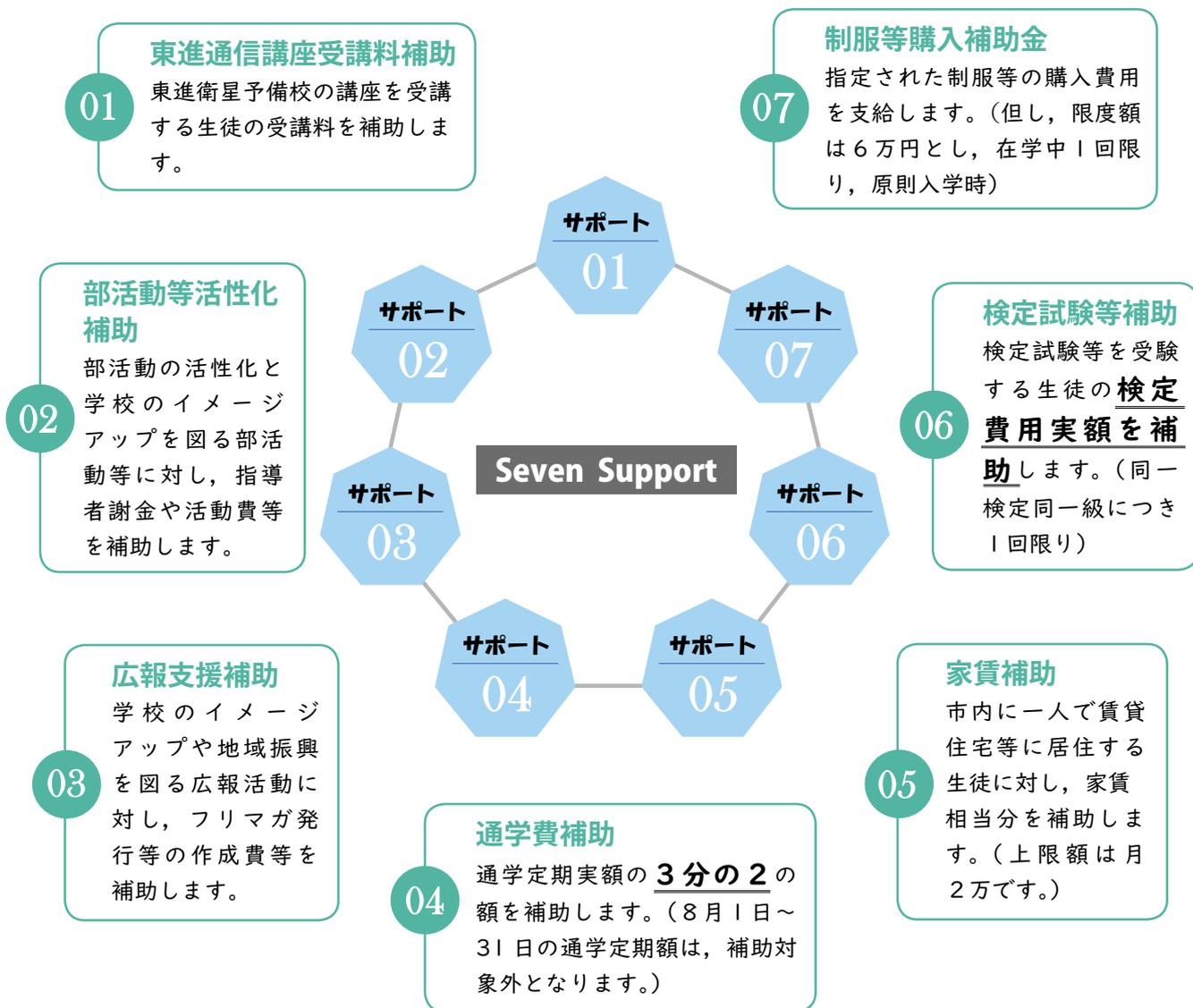
Seven Support

【セブンサポート】

垂水高校では、垂水市の支援を受け、垂水高校に在学する生徒に対し7つのサポートを行っています！

◎垂水市における垂水高校振興支援

垂水市では、「魅力ある垂水高校づくり」支援策として、平成23年度に「垂水高等学校振興支援計画書」を策定し、基本方針として5つの柱（学校のイメージアップ、進学・就職の充実、未来を担う人材づくり、垂水市の地域振興、学校と関連団体の連携）のもと、垂水高校を支援しており、このセブンサポートもその取組の一つです。（本誌発行も支援事業として行われています。）



鹿児島県立垂水高等学校

〒891-2106 鹿児島県垂水市中央町14 ☎0994-32-0062
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tarumizu/top.html/>

中学生の皆さんの
ご入学を
お待ちしております。